

而今某郡之有鳳至偉哉、名實相當。又按空墳、器界之起也。風輪轉水成金、故地依輪際以住。而今某莊之有輪島、抑亦小大可侔。公任備之刺史、身居能之善郷。問其生緣、則鳳至之郡、詳其食邑、則輪島之莊。其家譜也本源高出藤原、專爲搏柔球上四姓之長。其氏族也先世盛號桃井、鬱爲將軍營中萬夫之望。後來諸孫家登者避桃爲溫、猶如應侯相秦而改范稱張、弗唯君臣躰合、矧夫文武道彰、三條內府逍遙元老、親判和歌著述作勳、片言雙字之褒重於連城璧、九葉宰相惠林賢君、召見槐庭嘆雄偉質、一舉十觴之賜醇於甘露漿。慈愛蒞物千里不遠、清靜齊家積善有慶。州之豪民化鋤穰成、疾藜鐵器、勾他賊兵謀內驪。則公數寄命鋒刃安國磐石。昔者曾祖捨錢財、創栗棘實坊、歸吾佛乘逞外護。則公益傾心縮門爲法金湯。是故別安正名、拜師惠日。所惜深入敵壘暴骸賀陽、喚作冠巾和尚耶、肩搭五條依稀杜鴻漸、以伽梨加朝服。喚作鳥寺長老耶、腰挾三尺彷彿李光弼、嚴號令鎮朔方。嗚呼、黃金須是鑄遺像、暫假丹青上影堂。

天文乙未春三月上癸

前南禪常庵叟龍崇書于東山清涼軒下

四月。國澤德長、羽咋郡直海白山社の社殿を造替す。

【直海白山神社藏棟札】 羽咋郡 二二五八

奉造替能劬羽咋郡直海保尊神殿諸願成就祈攸

昔天文四年乙未四月

願主國澤六郎兵衛尉藤原德長 在判

【直海白山神社藏棟札】 二二五九

奉造替能劬羽咋郡直海保尊神殿諸願成就祈攸

天文六年乙卯月十六日

願主 國澤彦左衛門尉俊玖

千代女

(第二通は假作なるべし。天文六年は乙亥にあらずのみならず、社記に先に四年に造營したるもの炎上せるなりといへども信じ難し。)

十一月十八日。幕府、山城南禪寺に、同寺領能美郡得橋郷等を安堵せしむ。

【南禪寺文書】 山城

一一六〇

南禪寺領加賀國能美郡得橋郷并府南社主職、同御供田、同郡佐野牛嶋村、石河郡笠間東保、山家散田等事、任當知行之旨、彌全領知可被抽御祈禱丹誠之由、所被仰下候也。仍執達如件。

天文四年十一月十八日

(諏訪晴長) 左衛門尉 在判
(松田晴秀) 前丹後守 在判

當寺雜掌

十一月二十日。山城賀茂別當社政所、同社領河北郡金津莊の神貢を檢納す。

【鳥居大路文書】 山城

一一六一

(賀茂別當社) 太神宮政所

檢納

加賀國金津御庄御米竹石事

右御米檢納之狀如件。

天文二年十一月廿日

神主 賀茂 在判

(上記と同文のもの、天文十二・天文十六・天正二・天正十一・元和五・寛永五にあり。)

天文五年 丙申 紀元二一九六

三月十八日。足利義晴、能登守護畠山義總に、その四位に叙せられて禮物を贈れるを謝す。

【御内書案】 二二六二

爲舊冬四品禮、太刀一腰・馬一疋・青銅千疋到來、目出候(天徳)尙常興可申候也。

三月十八日

(足利義晴) 在判

畠山修理大夫入道どの

(畠山義總の修理大夫に任ぜられたるは、天文四年七月に在りて、これと同時に四位に叙せられたるなり。)

三月十八日。足利義晴、能登守護畠山義總に、